



無量光院跡。3代秀衡が12世紀後半に建立した寺院。園池に浮かぶ大小3つの島に翼廊付の仏堂と拝所・舞台をそれぞれ設けた空間構成は「浄土庭園」の最も発展した形態と考えられる。



観自在王院跡。基衡の妻が建立した寺院。発掘調査により阿弥陀如来の極楽浄土の表現を意図して「浄土庭園」が造られていたことが明らかになっている。

審議の内容

「平泉 仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群」についての審議は、現地時間で6月25日の午後5時16分から始まり、5時50分に世界遺産一覧表に登録される「記載」が決議されました。冒頭、会議の進行を務める議長から3月11日に発生した東日本大震災による影響がなかったことが紹介され審議がスタート。続いてイコモス（国際記念物遺跡会議）の委員によるプレゼンテーションが行われました。

審議では、イコモスの勧告で指摘されていた「柳之御所遺跡」が議題に上げられ、委員の中からは構成資産に含めても良いのではないかとの意見もありました。最終的には「浄土思想との関連性が薄く資産から除外すべき」とのイコモス勧告が尊重され、除外することが適当とされました。

また資産の名称については、委員国の意見により変更は行われず「平泉 仏国土（浄土）」を表す建築・庭園及び関連する考古学的遺跡群」と記載されることになりました。

決議の概要

決議では、登録基準の「基準 人類の価値の重要な交流」と「基準 顕著で普遍的な価値を有する文化伝統

や信仰」に該当するとして世界遺産一覧表への記載が認められました。

委員国の修正意見として、「3年という短い期間にイコモスと世界遺産の委員会の勧告を尊重し、非常に優れた再推薦を行った」と称賛する意見が添えられました。

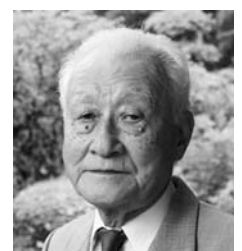
また勧告事項として、金鶏山とほかの4つの建築・庭園との眺望について、障害のない状態を維持すること、主要な道路改修の提案に当たっては、個々の構成資産の周辺環境の見え方を含め、顕著な普遍的価値の属性に対する影響を計る「遺産影響評価」を行うことと勧告されました。



パリで開催された第35回世界遺産委員会の開会式

Interview まちの声

文化遺産を後世に伝える



穂積昭慈さん(7区)
世界遺産推進協議会長

待望久しかった朗報に、長年、登録推進運動を続けてきた一人として感無量の気持ち一人であります。

私たちの運動は平泉が活性化されることもさることながら、12世紀の日本で辺境と言われた東北の地に燦然と花開いた仏教黄金文化の価値観を、世界遺産として誇り得るものであることを実証したかったからである。これを機に、先人の残した貴重な文化遺産を後世に守り伝える運動を続けていきたい。

さらに地震、津波と震災以来沈みがちな東北に「頑張ろう東北」の応援歌になれば幸いです。

平泉人として



升沢博子さん(11区)
平泉女性の会会長

私が生まれた年の2年後、昭和27年から平泉の発掘調査が始まったように聞いた。

その普遍的な価値を調査により示し町民に誇りを持たせてくださった藤島亥治郎氏の言葉を改めて読み返した。世界遺産に登録された今、私たち町民がこれから守って行かなければならないもの、目指す姿が見えないように思う。生前、平泉の史的景観、自然景観の変わりに警鐘を鳴らされた言葉を忘れないようにしたい。

東北を襲ったこの度の震災で、全てをなくした友人は登録を自分の事のように喜んでくれた。平泉人としてその心に答えたいと思っ